

○学校評価アンケートから

過日実施した“学校評価アンケート”の中で、「本校の教職員は、生徒に対して部活動を熱心に指導していると思いますか？」という質問がありました。これに対する回答が以下のとおりでした。

回答者	年	全くそう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	分からない
保護者	R2	19.1%	55.5%	9.6%	2.4%	13.4%
	R1	37.4%	42.6%	11.4%	3.7%	5.0%
生徒	R2	42.2%	38.3%	7.4%	4.0%	8.1%
	R1	56.4%	30.5%	7.4%	2.2%	3.6%
教職員	R2	11.9%	54.2%	25.4%	5.1%	3.4%
	R1	41.3%	50.8%	1.6%	6.3%	0.0%

どの回答者も「全くそう思う」が激減し、やや低めに回答されています。新型コロナウイルス感染症の影響によって自粛傾向にあり、ほとんど大会や遠征が積極的に行えなかったことが一番の要因であることは言うまでもありません。生徒のみならず、教職員のモチベーションも上がらなかったのは事実です。

また、『働き方改革』が進む中で、部活動に対する様々な制限が入っていることも大きく影響しています。例えば、『部活動に係る活動方針』では「年間平均で週当たり2日以上以上の休養日の設定に努める。」としています。さらに、教職員の残業時間は、上限を月45時間以内とされています。週5日の練習と考えれば、1回の練習時間は2時間半程度になります。

○これからの部活動の在り方について

今年度を振り返って考えてみたいことは、この機会に“指導者に頼る部活動”よりも“自らモチベーションを上げる部活動”へシフトすることです。指導では“アメとムチ”という言葉が使われますが、“アメ＝ほめること”“ムチ＝厳しい指導”と括ることができます。アメであれムチであれ、どちらにしても『外発的動機づけ』になってしまいます。つまり、課題ができたら報酬を得られる、出来なかった場合に罰が与えられる。だから、仕方なく与えられた課題をこなすことが目標になってしまう危険性があります。



限られた練習時間内で合理的且つ効率的に練習するには、『内発的動機づけ』が必須です。「○○が上手になりたい」「○○ができるようになりたい」と、開始前に各自で目標を決めて臨むことが大切です。また、自分たちでメニューを考えて工夫して練習することも大切です。試合をするのは指導者ではなく自分たちですから、必要に応じて指導者に進言してみることも必要です。また、定期的にミーティングの時間を設けてコミュニケーションを図って全体の目標を確認することも心掛けましょう。

そして、練習中は“ALL-OUT”を意識してみましよう。“ALL-OUT”とは、全力で疲れ切ってヘトヘトになることを意味しています。皆さんは、“ランナーズ・ハイ”状態になって練習したことはありますか？ダッシュ等を何度も繰り返すと、苦しくなるのは当然です。それでも、自分の意思で追い込んで乗り越えれば、だんだん体が軽くなって心地よさと共に動きが格段に向上します。その良さを味わえば、練習する度に意欲が芽生えて充実感に満たされます。

「やらされる」のではなく「自分の意思でやる」ことで、指導者の見え方にも変化が起こるはずです。イキイキとした表情で取り組んでいる人に冷たく接することはないですし、指導者の言葉が“説教”ではなく、“アドバイス”に聞こえるはずです。互いに限られた時間を“ALL-OUT”で過ごせば、勝ち負け以上に有意義な活動として価値が上がるでしょう。